

NIKKEN SEKKEI  
**Quarterly**

2006/Winter

目次

watching .....	02	山陽新聞社
	03	地域に開かれた新聞社をつくる 中村憲一
	04	公共性とメディアミックス 松葉一清
	06	街とつながる建築 大谷弘明
perspectives .....	08	科学技術8つの世界一 門田睦雄
topics .....	12	受賞から
都市経営フォーラム .....	13	第224回 伝統と創造 —まちづくり・文化・産業— 山出 保
works .....	14	竣工しました
		NHK徳島放送局新会館
		住友不動産三田ツインビル西館・東館
		大淀町立大淀緑ヶ丘小学校
		別府競輪場メインスタンド
		中日新聞豊橋総局
日建設計グループニュース .....	18	日建設計シビル
	19	日建スペースデザイン

表紙 山陽新聞社

発行：株式会社 **日建設計**

東京都千代田区飯田橋2-18-3 〒102-8117

広報室 Tel: 03-6478-8334

Fax: 03-5226-3044

URL: <http://www.nikken.co.jp>

制作：森本常美(株式会社 オーム)

協力：石堂 威(都市建築編集研究所)

印刷：日本平版印刷株式会社

撮影：山陽新聞社=テクニスタッフ(岡本公二)/Bresson

SS 篠澤 裕 イーストン(東出清彦)

フォトはなおか (順不同)

NIKKEN SEKKEI  
**Quarterly**

2006  
Winter





## 山陽新聞社

建築主 株式会社 山陽新聞社  
所在地 岡山県岡山市  
敷地面積 3,827.77m<sup>2</sup>  
延べ面積 22,981.47m<sup>2</sup>  
構造 鉄骨造、  
鉄骨鉄筋コンクリート造  
階数 高層棟 地下1階、地上20階  
低層棟 地下1階、地上7階  
竣工 2006年6月



watching

山陽新聞社

## 地域に開かれた新聞社をつくる

中村憲一

山陽新聞社 新社屋建設本部長



新社屋の建設にあたっていちばん気になっていたのは、新聞社は一般の読者にとって近寄りにくいのではないか、ということでした。そこで皆さんに気軽に足を運んでもらえるような、地域に開かれた新聞社にしたいという思いがまずありました。もう一つは、新聞を核として、テレビせとうち、CATV、FMラジオ、地域経済誌、さらには電子媒体など、グループのメディアミックスを進めることも狙いでした。

山陽新聞社は127年の歴史がありますが、メディアが多様化し、情報手段が拡大してきた今、従来のように新聞をつくり、配達して、読んでくださいというだけでは将来がないのではないか。読者が喜んでくれるようなスペースをつくって、あらゆる角度から攻めていく必要があると考えています。そこで、多目的ホールやギャラリー、広場をつくり、広場は市民に開放するというのがコンセプトでした。

そもそも新社屋を建設するきっかけとなったのは阪神・淡路大震災でした。あの規模の地震がもし岡山で起こったら、旧社屋では新聞社としての機能を果たせ

ないのでは、という不安がありました。土地の問題や、街中ですから近隣の問題などもあって時間がかかりましたが、2006年12月の地上デジタル放送開始に合わせて完成をめざしました。実は、この建物にはまだ編集局が移ってきていません。新聞は休むわけにいけないので、システム更新の時期に合わせて新しいシステムを構築して、編集部門が入って初めて新聞社として本格的に機能することになります。

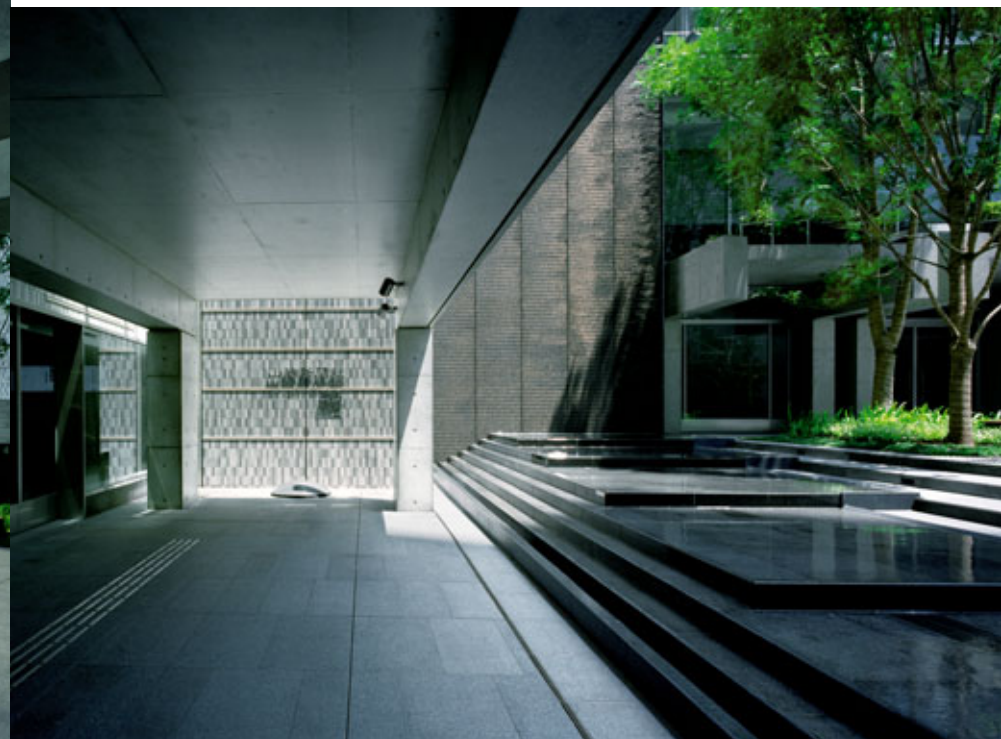
オフィスは機能の面だけでいえば横に広いプランのほうが使いやすいかもしれませんが、敷地がそれほど広くないこと、またテレビ局が入りますから、将来を考えてテレビ塔の高さが必要なこ

と、そして街のシンボルになるような建物がほしかったのです。

セットバックした低層棟の屋上を緑化するという設計者の提案を見たときには驚きましたが、岡山市内は、後樂園はあるものの、街中に緑が少ないのです。あるとき、わが社の役員がヨーロッパ視察から帰って、開口一番「ヨーロッパは緑が多いが、ああいう雰囲気は出せないのかな」といったのですが、広場を見て納得しました。これは周辺の人もびっくりしたと思いますし、市の担当者も計画段階から期待していたようです。これだけの広場ができてみると、思っていたより広い敷地だったのかなという感じもしてきます。

新社屋の建設はわが社にとって大きな投資です。これを後輩に引き継いで、うまい具合に使って会社の発展につなげていかなければなりません。ですから、設計者とも施工者とも勝負しなければならぬという気持ちで取り組みました。

最初に意図したコンセプトはうまくできたと思うので、あとはそれをいかに効果的に使っていくかがこれからの課題です。





## 公共性とメディアミックス

松葉一清

建築評論家 朝日新聞編集委員

気候温暖、住民の気質も温かな岡山は、ややもすれば存在感が希薄な都市だ。中庸を得てはいるが、強烈な個性に欠けるのは否めない。都市と建築の視点から見た場合、都心に残された城郭と庭園の遺構を必ずしも生かしきれていない恨みが残る。

「山陽新聞社」はそのような不満を一気に解消するだけの高水準の空間を、都市のなかに出現させた。あくまで直線を基調とするモダニズムの幾何学を、即物的に過ぎると思われる素材によって実現しながら、建築家の独りよがりには陥らない開明さで実現してみせた。

それほど広くはない敷地に、新聞社の本体の入る20階建ての高層棟と子会社にあたる地域テレビ局(テレビせとうち)の7階建ての低層棟が配された。両者は東西方向に長い敷地の両端を占め、高層棟の足元を4層分相当の吹き放ちとした広場で結ばれている。この広場に立つとき、岡山の街に対して抱いてきた都市と建築に関する不満が解消する快感を覚える。路面の施工は完璧で、その場に身を

置くと、足裏から信頼感が身体全体に伝わってくる。設計事務所として設計・監理が行き届いていることを実感させる来訪者のファーストタッチだ。

その確かさの支配する足元には水路があり、抑制された緑が配されている。この規模の広場に過剰な装置は必要ない。三方を道路に囲まれた立地からしても、滞留よりも通過を重んじる方が理に適っている。グレーで統一した路面の色彩もクールで謙虚さも漂わせて、そこに集まるひとびとの視覚を刺激しない。都市的な建築を手がける設計者たちの素養を感じさせる仕上がりだ。

広場から視線を上に向けていくと、立体としての建築と足元の意匠が、継ぎ目なく連続していることを知る。コンクリート打ち放しのキャンティレバーがメインエントランスで来訪者を迎え、視線の先には、グレーを基調に濃淡のバラエティを持たせた高層棟の外装が待ち受ける。

さらに上を見上げると、16メートルの高さのある吹き放ち上部の床裏が目に入る。垂鉛メッキを施された鉄材が鈍い

光を放ちながらびっしりと敷き詰められている。大胆なテクスチャであり、このようなモダンデザインの原義ともいえる素材そのままの肌理感が、都市に露出している光景は、ある種、感動的だ。

違和感。そういえなくもないだろう。しかし、高層棟の各階には、この床裏の仕上げを起点に、張り出しが3メートルを超える深い庇が、濃い陰影を外壁面に持たせながら最上階まで重なり連続している。そのステップバックの構成がつくりだす影の濃さは、例えば丹下健三の名作「香川県庁舎」のコンクリート打ち放しによる、あの弥生の美の表現を思い起こさせる。いや山陽新聞社の陰影の表現はもっと挑発的であり、幾何学だけで表現する外観において、近隣のビル群との差異を表現する野心があふれだしている。

その野心は容認されてしかるべきだろう。メディアという社会の先導を担う企業の総本山を構築するのであるから、野心は歓迎されてしかるべきだ。しかも、それが執務空間の熱環境の効率改善を補完する「機能」を全うしているのである



から、表現には実利も必然も担保されている。吹き放ちの床裏の垂鉛メッキのテクスチャといい、深いコンクリートの庇といい、メディアがよい意味での攻撃性を担う産業であることを表現するにも、的確な選択だと受け止めた。

その吹き放ちの広場から、放送局の低層棟を眺める。その姿もすばらしい。1階天井位置にはボリュームたっぷりのコンクリートの梁の断面がならび、2階部分からは、階を追って最上階の7階までセットバックしていく。こちらは鉄骨のフレームの箕の子状の庇がやはり深く張り出され、高層棟ほどではないが陰影をつくりだしている。その庇のうえに、植栽が施されているのが秀逸だ。

高層棟は20階という高さゆえにどうしても屹立するイメージであり、設計者たちはむしろその強動的な表現として、深い庇と、コーナーでは全階を一枚で覆う板状の外壁を採用した。高層棟の聳えるイメージを、広場に向けた側でも緩和させず、ソリッドな感覚をあえて強調する。

一方、低層のテレビ局棟の広場に面し

た外壁面は、量塊感を減衰させながら空へ視線を向かわせる細やかな表現の技が発揮されている。しかも、視線は庇から見え隠れする緑に癒されながら、上階へ向かうという周到さである。2つの棟は、さほど広くはない広場に適度な緊張感と緩和の両方を与えて、今後の岡山における都市整備の参照例をもたらしたのである。

高層棟の内部を見学する。1階の受付スペースは、来訪者に親近感を抱かせる抑制したデザインが心地よい。地元のひとたちとのコミュニケーションをベースに成立しているメディアとしての見識をうかがわせて好感を抱かせる。この1階を見下ろす配置でアトリウム内にギャラリースペースが設けてある。趣味を持つ市民を想定したギャラリーであり、そこもまた読者との交流を尊重する企業姿勢の現れとして好ましい。

岡山市内を一望できる最上階は、職員のための食堂にあてられている。市域の東側を流れる都市河川・旭川沿いに広がる後楽園の緑。その先には操山の尾根が望める。午後の強い光のなかで、遠望す

る緑と、その前に展開する雑然とした市街地は対照的な姿を示す。

メディアで働くひとにとって、このように都市の姿を掌握できるのは、精神的にも仕事の助けとなるだろう。旭川の流れの先には、瀬戸内の海を隔てた四国の連山の山並みも、季節によっては望める。軽やかで快適なインテリアのなかで、日常的な食事の時間に、岡山の地勢的な位置取りを体感できる社員食堂はわたしにはうらやましく映った。

低層の「テレビせとうち」の入る棟は、地上デジタルへの移行を踏まえて計画された。地元ニュースを発信するためのスタジオが機能的な中枢部分である。同局は、テレビ東京系であり、本社竣工を機に、経済ニュース番組「ワールドビジネスサテライト」をここから生放送した際、小谷キャスターらが使った小道具のテーブルをそのままらい受けて活用するなど、小回りの効く企業姿勢がうかがえた。スタジオは小さいながらも最新のCG機能などを備え、地元にとって重要な情報発信の場として機能していくであろう。

それにしても感心したのは、この本社ビルを案内してくださった新社屋建設本部長、中村憲一さんの熱意だった。建設の経緯を知る立場の責任者が、今後の運営が軌道に乗るまでしっかり見届けようとの決意が感じられた。中村さんは「メディアミックス」という言葉を何度も使った。地域中核紙と地元放送局の連携が直接的な目標だろう。その意図は両者を結ぶ秀逸な広場によって、的確に達成されている。

良質な施主を得てこそ、建築は設計者の意図も表現も、実現するのであり、社会化もする。それはそのまま市民に、ひいては地域にも、望ましい結果をもたらすであろう。地域メディアの本社がこのように祝福される存在として登場したことを、わたしも心から喜びたいと思った。





watching

山陽新聞社

## 街とつながる建築

設計 大谷弘明

山陽新聞社は、西側が市役所筋という大通りに面し、間口よりも奥行きのある敷地に建っています。当初、西日を遮るために正面は壁で閉ざして、脇からすつと斜めに入るような案も考えたのですが、建築主から建物はできるだけ間口を大きく持ちたい、さらに、市役所筋に対して閉鎖的にしないで開きたい、というお話がありました。日差しの条件などいろいろ課題はあるものの、建物は街並みの文脈を無視して建てられませんから、考え直すことにしました。

奥行きが深い敷地に建物をどう配置するかはいろいろ考えられます。たとえば容積率を上げるために総合設計制度を適用する場合、たいていは敷地の真ん中に建物を建てて四周に空地を設けるわけです。しかし、この敷地周辺には小ぶりな建物も多く、2万㎡を超える建物がドンと建つと、周囲にかなりの影響を与

えることになります。近隣への影響を最小限にして、なんとか優しく連続させることはできないかと思い、建物を前面道路境界ギリギリに寄せて建て、その代わりに建物の足元真ん中を抜くことで、奥に向かって連続する視線を生み出すことを考えました。そこで高層棟を4層分持ち上げて一種の門構えをつくり、その奥に楽しい場所がある、という提案をしたわけです。

まず「お祭り広場」があり、奥にある中庭との切り替え部分には階段状に80cmの段差をつけ、なおかつ少しずらして中庭を配置しました。ストーンと奥が見えるのではなく、視線を雁行させて「奥」を強調しています。中庭を囲んでちょっとずつ性格の違う建物が、後退しながら、あるいは矩折れにすれながら、まるで集落をつくっていくように置かれ、奥があって、そのまた奥があるという不思議な配

置になりました。

中庭の小さな木立の中にはお社が祀られています。これはもともと旧本社の屋上に祀られていたものですが、きちんとお祀りしたほうが街のためにもいいだろうということで中庭に移設されました。十年後に小さな鎮守の森のようになるのが楽しみで、建物の奥深くに緑の塊が抱きかかえられるようにあるという風景は、なかなか素敵なことではないかと思っています。

「お祭り広場」の天井にあたる部分に使った溶融亜鉛メッキ鉄板はそれだけで見ると冷たく感じますが、外壁のタイルの色などさまざまな印象のグレーとの取り合わせの中で、緑が生き生きと見えます。溶融亜鉛メッキは、電柱や高架鉄塔などに使われる仕上げで、ステンレスなどより錆に強く、時間と共に落ち着いたしっとりとした風合いになるので、時間が生み

出す意匠として有効だと思っています。

西側から入ってきた空気がすーっと抜けるように、低層部は徐々に後退させて、屋上に植栽を施しています。実は高層棟の庇の上も緑化する案を描いていました。深い庇があり、その鼻先に緑が載っていれば、照り返しがほとんどなくなると考えたのですが、これは実現しませんでした。

高層棟の庇の奥行きは工費を抑えるために一律ではなく、南側は1.8m、東は2.7mとし、西側だけは西日のことがあるので3.6mを確保しました。やはり西側がいちばん効いているようで、実際、午後3時を過ぎても直射光は室内に入ってきません。深い庇は雨や日差しから建物を守ってくれますし、窓が雨に直接打たれることがないので、高層階のサッシュはごく普通のものを使っています。

庇は単に日差しを遮るだけではなく



おおたに ひろあき  
設計室長

て、帽子の鍔が景色を見やすくするように、窓から望む風景を美しく見せることができます。庇が深いと陰影ができ、建物に彫りの深い表情を与えます。丹下健三さんの傑作「香川県庁舎」や日建設計の「パレスサイドビル」など、一時期モダニズム建築はこうしたことを当たり前にやってきました。最近の事務所建築はダブルスキンにすればいい、というように環境負荷を技術的に解決する方向に向かいがちですが、私はそれに疑問を感じています。また、かつて、事務所建築では経済的設計のため階高を5cm、1cm詰めることに美学を感じていた時代もありましたが、階高の低い建物は、改修するにもOAフロアのためには天井高さが足りなくなる、設備改修が困難という問題が起きています。建物は生き物だとつくづく感じます。最近の事務所建築はガラス張りの開放的な建物が多いのです

が、私はどこかに陰翳といった日本の美を出すこと、あるいは「閉じつつ開く」というようなことを考えています。全国津々浦々同じようなデザインの建築を建てるのではなく、飽きのこない意匠で、かといって保守的になるのではなく、地元の人が馴染んでくれるような建物をつくりたいと思っています。

今回の計画は建築主の大英断があって実現しました。4層分の吹き抜け部分に床を張って部屋にすれば大きな床面積を確保できるわけですし、中庭を開放することは警備上の課題もあります。そうしたさまざまな点を熟慮したうえで、一私企業の計画でありながら、街に開かれた広場をつくり出すことができました。この広場は、建築主が地域にしっかりと根を張って生きていくということの決意の表れをかたちにしたもののなのです。

(聞き手：石堂 威)





## 科学技術8つの世界一



理事 設計部門副代表  
門田 睦雄  
(かどた むつお)

日建設は古くから生産施設の設計を得意としてきましたが、そこで求められる特別な要求に応える技術は、一般建築にも生かされ、先進的な建築を創るのに役立ってきました。例えば、製鉄工場などの大空間の鉄骨構造技術がその後の一般建築の大スパン構造に生かされたり、工場の自然換気技術が省エネルギーのための自然換気技術に生かされたり、という具合です。

私たちが最先端の科学技術施設に挑戦するのも、今までにない研究環境を実現するため、その装置をいれる建築にもこれまでになく要求があり、それに応えることが新しい建築につながると考えるからです。私たち先端科学技術・生産施設チームはこれまで多くの世界一、世界初というプロジェクトに挑戦してきました。そのうち最近の8つの成果を紹介します。

### 1. スーパーカミオカンデ

(世界最大のニュートリノ観測装置)

小柴昌俊博士のノーベル賞受賞で広く知られるようになった素粒子ニュートリノですが、その特徴は、物質とほとんど反応しないためあらゆるものを通り抜けてしまうことです。このニュートリノを捉えるには、大量の水を貯めた莫大な数の水の分子が存在すれば、確率的には衝突が起こり、その反応で発生する微弱な光により検知できます。そのための装置が、このスーパーカミオカンデです。この施設が地下深くにあるのは、観測の邪魔になる他の宇宙線を避けるためです。

建築上苦勞したのは、光電子増倍管(PMT)と呼ばれる大きな真空管を高さ40mの大空間にいかに取り付けるか、でした。工事の安全のため、PMTを取り付けた約3m幅の架台を吊り上げながら下から組み上げ、それを円周方向に展開する方法を採用しました。

### 2. SPring8

(世界最大の放射光施設)

放射光は、光速に加速された電子が軌道を変える時に発生する明るい光(紫外線やX線)です。光学顕微鏡が発明された時、肉眼では見えなかった世界が見えることで実に多くの発見がありました。電子顕微鏡が発明された時もそうでした。いまでは放射光の利用により、さらに小さなものを見ることができ顕微鏡が発明されました。

SPring8は入射系加速器と直径500mの蓄積リングで構成されています。蓄積リングからは61本の放射光ビームが取り出され、各ビームが顕微鏡に相当します。1997年に操業開始し、世界中から科学者を集め、蛋白質の構造解析など多くの成果を上げています。

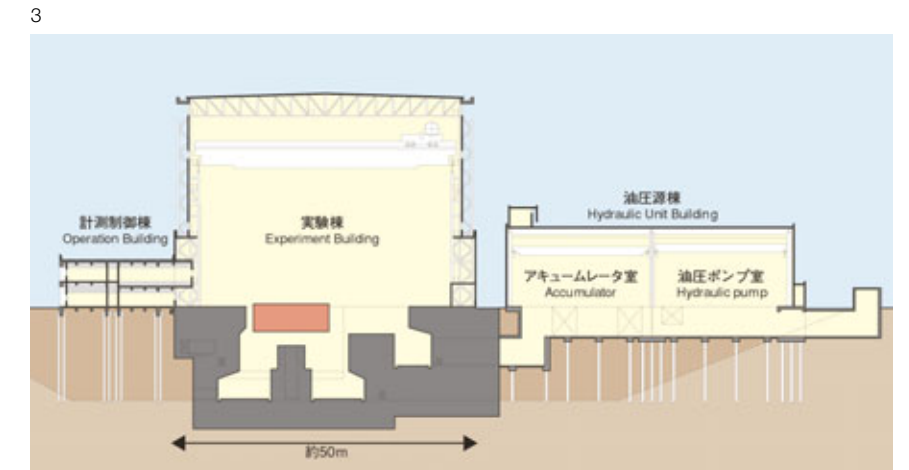
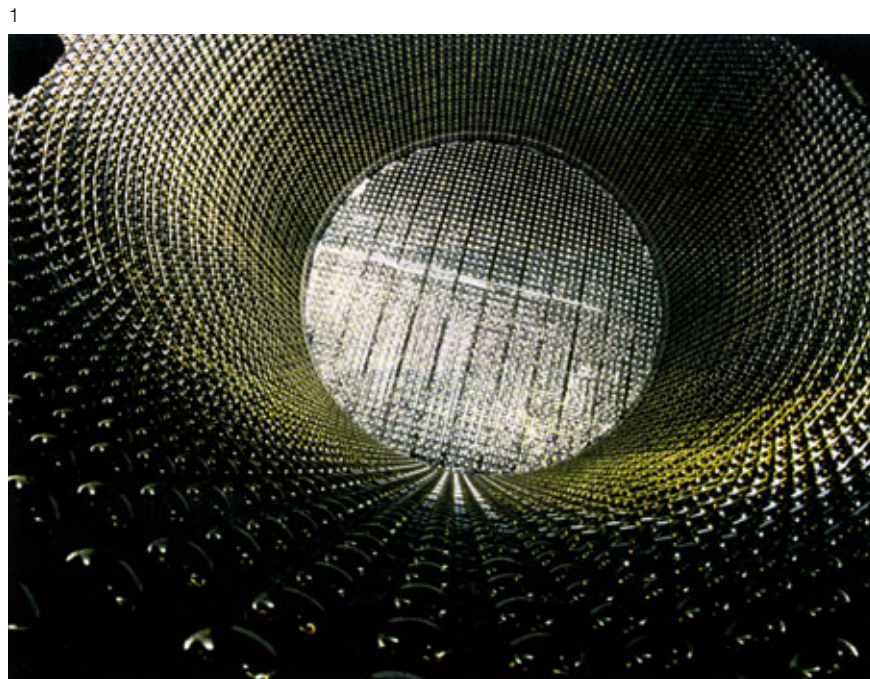
施設面では蓄積リングの安定性が重要です。床面の微小な変形や振動を抑えるために、よい地盤を求めて山を取り囲む配置にしたり、蓄積リングを収納するトンネルを建物で保護する鞘堂構造にしたり、多くの工夫を盛り込みました。

### 3. E-Defense

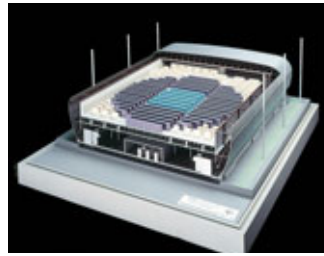
(世界最大の振動台)

1995年の阪神・淡路大震災は、建築関係者に、構造物の耐震設計にはまだまだ解明すべき点が多いことを思い知らせました。E-Defenseはこの反省に立ち、「建物がどう壊れるか」、「どこまで壊れるか」、「なぜ壊れるか」を解明するため、実物大の建物を三次元振動により、破壊に至るまで揺らすことのできる実験施設です。そのためには世界最大の1,200tの加振能力が必要ですが、10m×15mの広さの震動台を、水平X方向5台、Y方向5台、鉛直方向14台の油圧式加振機で加振することで、想定通りの地震波で加振できます。

建築面では加振機の反力を受けながら周辺に震動を伝えないことが課題です。このためダム工事に匹敵するマスコンクリートの品質管理を行いながら20万tのコンクリート基礎を構築しました。また実物大の試験体を振動台に載せるため、50mのロングスパンに400tの高性能クレーンを2基設置しています。







4

**4. 地球シミュレーター**  
(世界最速のコンピューター (当時))

地球シミュレーターは2002年に、それまで米国が持つ記録を5倍も引き離す35テラフロップスの計算処理速度を実現し、当時世界最速のスーパーコンピューターとなりました。この結果は、米国に、人工衛星打ち上げでソ連のスパウトニクに先を越された時以来の衝撃を与え、「コンピュートニク」という言葉が生まれたほどでした。その後気候、気象関連をはじめ、いろいろな分野でこのコンピューターを使って研究がなされ、多くの成果が生まれ出されました。

このコンピューターは電磁波に極めて敏感なため、建物は電磁波の影響を排除するための多くの工夫をしています。雷に対しては独立の避雷針を設け、周囲の無線電波に対しては金属の屋根や外壁で建物全体をシールドし、地中の迷走電流には免震用ゴムで大地から建物を絶縁し、鉄骨や鉄筋などが電気的につながっている場合に発生する微弱電流にも配慮し、影響を排除しました。

5

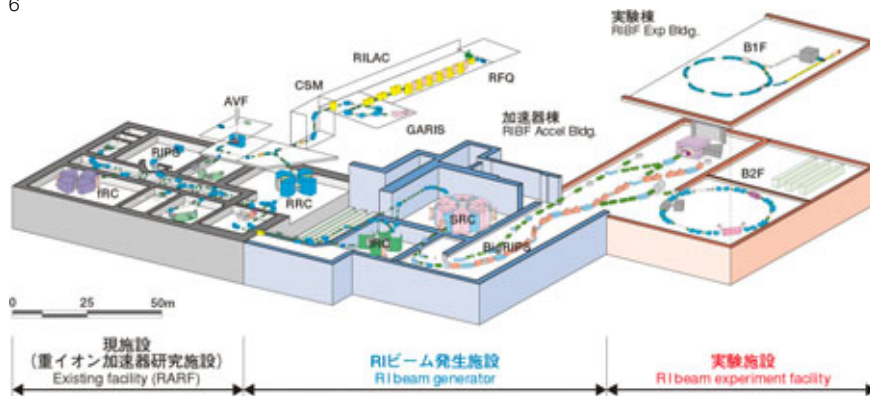


**5. 理化学研究所横浜研究所**  
(世界最大のNMRファシリティ)

バイオサイエンスではゲノムの解読の後、蛋白質の構造解析が重要課題になっています。核磁気共鳴装置 (NMR) は蛋白質を結晶化させなくてもそのまま画像化でき、この研究には非常に有効な装置です。理化学研究所の横浜研究所には40台のNMRを集積し、「タンパク3000計画」をはじめとする先端的研究に役立っています。

NMRは強力な磁場を用いて物質の原子状態を調べる装置なので、設置する部屋にも磁場の強さに応じて使用材料を変えるなどの強磁場対策が必要でした。そのため建物の主要構造を木造としました。装置の基礎は震動対策のため大きな質量のあるコンクリートの独立基礎としましたが、磁気対策のため鉄筋の代わりにアラミド樹脂を使っています。

6



**6. 理化学研究所RIビームファクトリー**  
(世界最強のサイクロトロン)

天然には256個の安定な原子核が存在しますが、これ以外に自然に崩壊していく「不安定原

子核 (RI)」があります。自然界に存在するRIは、ウラン、トリウム、ラジウム、カリウムなど約70種で、その他にも7,000個近い不安定原子核が存在すると予想されています。これらは人工的に合成されるのですが、極めてユニークな性質を示すものが多く、様々な新しい物理現象を引き起こします。RIビームファクトリーは重イオンを加速して標的に当て、発生するRIビームを精製して不安定核の実験に用います。

建物は加速器用の大空間が必要で、装置から発生する強い放射線を遮蔽するために厚いコンクリートで構成しています。

**7. HIMAC**  
(世界初最大の医用粒子線がん治療装置)

放射線によるがん治療ではこれまでX線やガンマ線が使われてきました。これら電磁波による治療では患部以外のところもダメージを受けるという副作用がありますが、陽子線や重粒子線では粒子自体を患部に打ち込むためがん細胞のみをピンポイントで破壊することができます。これまでも物理実験などに使う加速器を一部がん治療に利用する研究的施設はいくつかありましたが、放射線医学総合研究所のHIMACはがん治療専用の施設です。これまでに多くの治験を行い、データを蓄積しました。現在はこの経験を生かし、小型化した実用施設を全国に普及させる段階です。

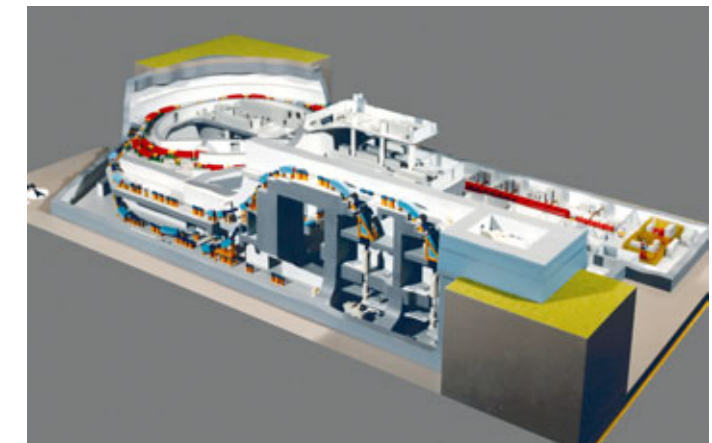
**8. J-PARC**  
(世界最強の陽子ビームを有する加速器と実験施設)

高エネルギー加速器研究機構 (KEK) と日本原子力研究開発機構 (JAEA) が共同で推進しているこの研究施設は、世界最強の陽子ビームを

使い、素粒子実験や応用実験を行う一大実験施設群です。原子核・素粒子実験施設、ニュートリノ実験施設では素粒子物理学の実験を、物質・生命科学実験施設では中性子ビームを用いて物質科学、生命科学の実験を行います。

リニアックは、長さ330m、50GeVシンクロトロンは1周1,600mという大型施設で、微小な変形や振動にも敏感なため、これらを出水の多い砂地という地盤条件で、微小な沈下も制御しながら建設するという難しい設計でした。

7



8

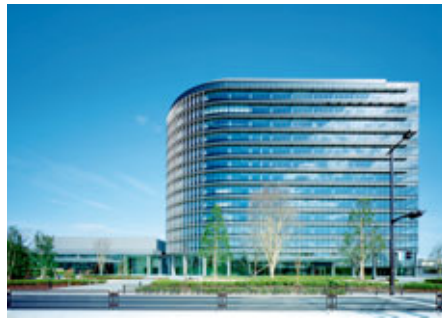




受賞から  
最近の主な受賞をご紹介します。



京都迎賓館  
JIA優秀建築選2006  
(社)日本建築家協会



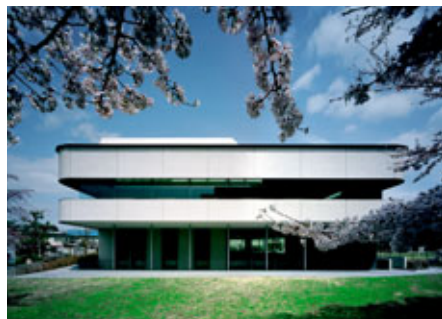
トヨタ自動車本館  
JIA優秀建築選2006  
(社)日本建築家協会



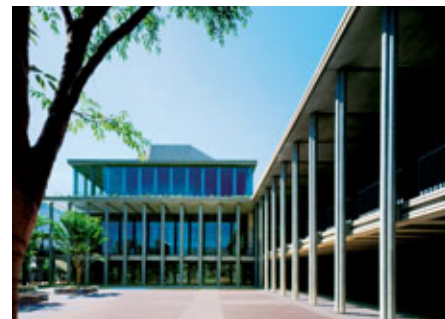
中部国際空港旅客ターミナルビル  
JIA優秀建築選2006  
(社)日本建築家協会  
(共同計画・設計監理: 梓設計・HOK・ボヴィス・アラップ)



広島経済大学 メディア情報センター  
JIA優秀建築選2006  
(社)日本建築家協会



京都大学医学部百周年記念施設 芝蘭会館  
JIA優秀建築選2006  
(社)日本建築家協会



兵庫県立芸術文化センター  
JIA優秀建築選2006  
(社)日本建築家協会



日本生命丸の内ビル  
JIA優秀建築選2006  
(社)日本建築家協会



大阪証券取引所ビル  
JIA優秀建築選2006  
(社)日本建築家協会  
(設計: 三菱地所設計 設備設計: 日建設計)



淀屋橋山本ビル  
JIA優秀建築選2006  
(社)日本建築家協会



高山市立南小学校  
JIA優秀建築選2006  
(社)日本建築家協会

桐朋学園大学アネックス  
JIA優秀建築選2006  
(社)日本建築家協会



日建設計「都市経営フォーラム」  
ダイジェスト 大隈 哲 (日建設計 都市・建築研究所)

第224回 2006年8月24日  
伝統と創造 —まちづくり・文化・産業—

山出 保 (やまで たもつ)  
金沢市長

講師の山出 保氏は、1931年金沢生まれ。1954年金沢大学法文学部法学科卒業、金沢市に奉職。1987年金沢市助役に就任。1990年金沢市長に就任(4期目)。2003年全国市長会会長に就任(2期目)。

まちの特性

金沢は、420年間、戦争体験のない街。前田の大名は学術と文化を大切に、今も伝統的な環境や文化が残っている。この街を元気にするには、この伝統環境・伝統文化を大切にしながら、新しい試みを加えて行くこと。

まちづくりの基本—保存と開発の調和—

まちづくりの基本は、残っている古い佇まいと開発近代化を調和させること。調和の手法は、この2つをはっきりと区別すること。残すのは、3つの台地、2つの川と用水、城を中心とする街、近代化は都心軸として香林坊～駅～港への軸と決めて行っている。

住まいの土塀や格子戸を残し、茶屋街を残すのに、25年かかった。「アルミサッシの方がいい」「保存すると自由がなく、資産価値も下がる」と言われたが、金沢だけでなく日本の資産だからと説得し、文化庁の保存地区に指定された。観光客への土産物は金沢特有のものだけしか売らないという、まちづくり協定もできた。駐車場になっていた用水上の蓋を取り、用水を復活させた。車を締め出し、人が歩けるようになると、商店街が元気になった。3つの台地も、斜面緑地も残す条例を作った。

1989年に、景観条例を作り、2003年には、茶屋街から高い建物が見えないようにと、眺望景観を条例に入れた。俯瞰景観、沿道景観、夜間景観などの配慮は必要だ。

日本のまちづくりの反省点は、汚い街になったこと、街が拡散したこと。景観も公共財だ。金沢では、地域毎の景観形成基準を作り、建物の高さ、色彩について、審議会で審査することになっている。

一方、開発近代化では、駅前広場に駅の顔として「もてなしドーム」と「鼓門」を作った。都市の軸線開発には、区画整理や再開発を活用。土地や床を出し合うので、意見をまとめて行くのが苦勞あるところ。将来はこの軸線に、新交通システムを入れ

都市経営フォーラムの全文は、ホームページに掲載されていますのでご覧ください。  
<http://www1k.mesh.ne.jp/toshikei/>

たいと思い、既に地下3層に空間を用意している。道路は、環状道路を整備し、加賀や能登半島から来る車を振り分ける予定。山側が完成し、海側が工事中。既に交通負荷が減った。環状道路の完成で、街中は歩行者優先にできる。マイカーから公共交通への転換を図りたい。コンパクトシティを意識して、1999年から「ふらっとバス」というミニバスを導入。

2001年から「街中定住促進条例」で街中居住への補助金を出したら、徐々に効果が出てきている。一方で、交流人口を増やすことも重要。新幹線の延伸と、金沢港の築港がある。お陰で、港周辺には大企業が移ってきた。

金沢文化の振興

ソフト・文化の話も大切。金沢の伝統文化には、芸事、手仕事、職人技の3つがある。伝統芸の加賀宝生や素雛子の「子ども塾」を作ったら、子どもたちがたくさん参加し、伝統文化が伝わると確信した。職人技の伝承のために職人大学も作った。現役の職人さんが更に高度な技を習う。昔の職人のように、芸事、茶、謡も習う。農家の後継者をつくるために、農業大学校も作った。

新しい文化も作った。故・岩城宏之さんがクラシック音楽を持ち込んでくれ、金沢を世界に売ってくれた。紡績工場を演劇の劇場にし、デラックスな音楽堂ではなく、練習の場を提供した。県の本格的美術館に対して、市の役割としてコンテンポラリーアート美術館も作った。

金沢のものづくりの経緯

金沢のものづくりは、馬の銜あぶみと鞍あぶみづくりに始まった。その延長線上で、高速自動織機、回転寿司の機械、瓶詰機械、ベルトコンベアなども金沢から。

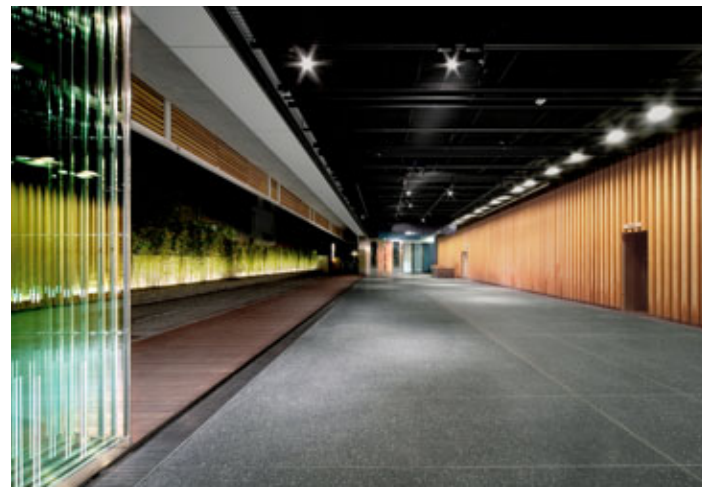
新産業の創出と振興

繊維業を元気にするには、ファッションということで、新しいテキスタイルやアパレル分野と伝統的な加賀友禅と一緒に新しい挑戦を考えている。

最後に、今までのことを踏襲するのは伝承。伝統は、伝承とは違い、絶えず新しい試みを行い革新の営みをする。それは、まちづくりでも、文化でも、産業でも同じ、と結んだ。



竣工しました



## NHK徳島放送局新会館

NHKの放送局です。同社の理念である「公開と参加」を実現するため、1階に外構と一体となるロビーや汎用スタジオ・汎用スペースなどの賑わいの空間を設けました。藍染の色をイメージしたカーテンウォール、壁面緑化を施した木製ルーバー、青空に映える白い外装としました。



建築主 日本放送協会  
所在地 徳島県徳島市  
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造、免震構造  
階数 地下1階、地上4階  
敷地面積 2,579.57m<sup>2</sup>  
延べ面積 6,421.68m<sup>2</sup>  
工期 2004年9月～2006年5月



## 住友不動産三田ツインビル西館・東館

JR線を挟んで並び立ち、内外装の意匠を合わせたツインビルです。外観の赤色のラインが特徴で、周辺のランドマークとなることを目指しました。西館の高さは179.3mで、足元に約1haの庭園を設けており、オフィスと賃貸マンションから構成されます。東館の主要用途はホテルとオフィスです。

建築主 住友不動産 株式会社  
所在地 東京都港区

■西館  
構造 鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造  
階数 地下2階、地上43階



敷地面積 15,206.20m<sup>2</sup>  
延べ面積 98,338.13m<sup>2</sup>  
工期 2003年12月～2006年9月  
住宅内装設計：陣設計

■東館  
構造 鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造  
階数 地下1階、地上17階  
敷地面積 5,479.33m<sup>2</sup>  
延べ面積 35,047.16m<sup>2</sup>  
工期 2004年10月～2006年8月  
ホテル設計：アトリエTamamo





竣工しました



## 大淀町立大淀緑ヶ丘小学校

教育プログラムの変化に対応できるように学習スペースを学年ごとの分棟=「小さな家」とし、生活空間などと連続的につなげて、学校全体を一つの「大きな家」として計画しました。各棟の間には中庭とデッキを配置しています。また、主体構造の上部は木とスチールの小屋組架構としています。

建築主 大淀町  
所在地 奈良県吉野郡大淀町  
構造 鉄筋コンクリート造、一部木造および鉄骨造  
階数 地下1階、地上2階  
敷地面積 13,837.86m<sup>2</sup>  
延べ面積 6,620.87m<sup>2</sup>  
工期 2004年6月～2006年3月



## 別府競輪場メインスタンド

競輪場のメインスタンドとサブスタンドの改築計画です。疾走する自転車をすり抜ける風や、海に近い立地条件から波をイメージした外観として、地域の人にも親しまれ、誰もが気軽に利用できる施設を目指しました。

建築主 別府市  
所在地 大分県別府市  
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造  
階数 地上5階  
敷地面積 45,612.86m<sup>2</sup>  
延べ面積 7,809.64m<sup>2</sup>  
工期 2005年8月～2006年9月



## 中日新聞豊橋総局

中日新聞社の総支局ビルです。南面の縦ルーバーと西面のルーバー状の柱により日射と視線の制御を図りました。震災時には報道拠点となることから高い耐震グレードとし、非常用発電機も設置しています。

建築主 株式会社 中日新聞社  
所在地 愛知県豊橋市  
構造 鉄筋コンクリート造  
階数 地上3階  
敷地面積 857.07m<sup>2</sup>  
延べ面積 634.96m<sup>2</sup>  
工期 2005年12月～2006年7月





日建設計都市・建築研究所	日建設計中瀬土質研究所	日建設計シビル	日建ハウジングシステム	北海道日建設計	日建設計総合研究所	日建スペースデザイン	日建ソイルリサーチ	日建設計 マネジメントソリューションズ	日建設計 コンストラクション・マネジメント	ブロードバンド・ エンジニアリング	ビルディング・パフォーマンス・ コンサルティング
--------------	-------------	---------	-------------	---------	-----------	------------	-----------	------------------------	--------------------------	----------------------	-----------------------------

北海道日建設計事務所移転のお知らせ  
 北海道日建設計は11月6日より下記住所に移転いたしました。  
 (電話・ファクス番号は変更ありません)  
 〒060-0042 札幌市中央区大通西8丁目2番地  
 Tel: 011-241-9537 Fax: 011-261-7673

## 日建設計シビル

株式会社 日建設計シビル  
 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号  
 Tel: 06-6229-6399 Fax: 06-6229-3381  
 URL: <http://www.nikken-civil.co.jp/>



### ベトナム・ハイフォン市まちづくりコンペで 日建設計シビルが最優秀賞を受賞

日建設計シビルは、ベトナム・ハイフォン市が実施したまちづくり国際コンペで最優秀賞を獲得しました。コンペは、2005年12月に要綱が公表され、9者(海外2者)が参加。2006年4月10日に弊社の最優秀賞が決定しました。

ハイフォン市はハノイの東約100kmに位置する人口約180万人のベトナム第3の都市。ベトナム北部を代表する港湾都市で、貿易、商工業の中心として目覚ましい発展を遂げつつあります。また世界自然遺産登録(ハロン湾)のカットバ島など年間100万人以上が訪れる観光地としても発展しています。

コンペは同市の中心部を流れるラクチャイ川のアンドン橋からラオ橋までの約13km、周辺約1,300haについてのまちづくり提案。経済的な豊かさや引き換えに美しい自然環境や景観、潤い、ゆとりといった精神的な豊かさへの配慮がおろそかになってしまった日本の都市開発の反省を踏まえ、弊社は、「川・まちづくりによってハイフォン市を気品ある持続的発展都市に導く」ことをテーマに、『自然・歴史・文化を継承するまちづくり』『水辺の魅力を活かした国際観光都市の新たな顔づくり』『利便性が高く環境にやさしい多様な交通システム』の3つを提案の柱としました。

年内を目途に、地元と連携しながら提案の実現化に向けて対象地区の詳細計画業務を実施しています。今後も日建設計グループの総合力を活かしながら、アジアのアーバンデザインプロジェクトに積極的に参画していきたいと考えています。

## 日建スペースデザイン

株式会社 日建スペースデザイン  
 東京都千代田区三崎町3丁目3番10号  
 Tel: 03-3264-6609 Fax: 03-3264-6697  
 URL: <http://www.nspacedesign.co.jp/>



### 太平洋フェリー「きそ」のインテリアデザイン

インテリアデザインは建築の内部だけではなく、もともと、インテリアデザインが発達したのは、客船など船の「艦装」という仕事があったからだという説もあるくらいです。私たちは以前、同じ太平洋フェリーより「いしかり」というフェリーのインテリアデザインをさせていただいたことがあり、その縁で今回も全面的に参画しています。この「きそ」は名古屋港を拠点に、仙台港と苫小牧港に寄港往復を繰り返す、16,000総t、旅客定員800人のクルーズフェリーの新造船で、フェリーとしては国内最大級です。個室は147室におよび、ラウンジ、シアター、レストラン、展望浴室などを備えています。なお、インテリアデザインはスウェーデンのThe ShipPax Awardから「突出したフェリーラウンジ」として選定され、受賞しています。

